

## 卒業生答辞

沢山の思いが詰まった3年間。入学した時から新型コロナウイルスの影響を受け、様々な制約がかかった学校生活でした。悔しくて「どうして」と嘆いたり、自分の運命を恨み、人を羨んだりもしました。ウイルスの猛威の前に私たちに出来ることはあまりにも限られていて、「仕方ない」そう思うことでしか、自分自身を納得させる術はありませんでした。苦しい日々だった。楽な道のりではなかった。しかし、私たちは不幸な学年ではありません。最高の3年間でした。心の底からこう言えます。冬の寒さに打ちひしがれた桜の蕾も大きくなり、その寒さが厳しかった分だけ、大きな花を咲かせようとしています。風光る桜月の良き日に、桜の蕾のように希望と夢をいっぱい抱き、私たち184名は、胸を張って滑川中学校を卒業します。

3年前、この場所でスタートラインに立ったことが昨日のこのように思い出されます。コロナウイルスに世界中が混乱していたあの時、私たちは流れに身を任せるように、小学校を卒業し、滑川中学校にやってきました。初めのうちは、中学校という新しい世界と未知のウイルスへの恐怖とが重なり不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、滑川中学校を知る度に、これからの楽しみや期待が自然と心の中に生まれていきました。分散登校が終わり、6月に本格的に学校生活が始まってからは、先輩方の背中を見て、少しずつ「滑中生」というものを覚えていきました。

1年生の最大の行事であるスキー教室では、話し合いや準備を重ね、みんなで大きなものに取り組むことに胸を躍らせました。菅平の澄み切った青空の下、真っ白なゲレンデの上で、沢山の思い出を作りました。日帰りでしたが、時間が少ない分、思いの詰まった中身の濃い体験になったと思います。

先輩を支えて後輩をリードする、難しい立場になった2年生。様々なことに挑戦し、成功と失敗を沢山経験しました。事前学習から夢中になった修学旅行。みんなでわくわくしながら歩いた金沢市内。北陸の寒さを吹き飛ばすほど熱く盛り上がった自慢大会。眠い目を擦りながら友と語り合った夜。行き先が京都ではなくても、大好きな仲間と過ごす時間は最高の思い出になりました。

例年の社会体験チャレンジの代わりに取り組んだ、NAMEGAWAドリームプロジェクト。滑川町の企業や人々の為に心を込めて作品を作りました。事業所の方の笑顔が本当に嬉しく、働くことの意義や滑川町の魅力など新しいことを知りました。

3年生、最高学年。全てについての「最後」という言葉に、「もうこの1年で終わってしまうんだな」そう実感しました。

5月の爽やかさの中で、心を熱く燃やしていた体育祭。応援の練習に、団旗の作成。憧れだった先輩方のように、最後の体育祭に向けて精一杯取り組んだ私たち。一生懸命だったからこそ思いがすれ違うこともあったけれど、「最高の体育祭にしよう」その気持ちでみんなが一つになり、熱い体育祭にすることができました。その団結力は合唱コンクールでも発揮され、最高の合唱にしようと、心を一つにして歌声を響かせました。それぞれの合唱には3年間の思いがこもっていて、胸にこみ上げるものがありました。この仲間とだったからこそ、大粒の涙も、最高の笑顔もあった、心に強く残る合唱コンクールになったのだと思います。

3年間毎日全力だった部活動。へとへとになるまで汗を流し、夕陽を見ながら自転車を漕いで帰ったあの日々。辛いことも沢山ありました。もう辞めてしまいたいと思った苦しみ。悔しくて悔しくて、溢れて止まらなかった涙。コロナウイルスの影響で、活動が長期間停止になったことや大事な大会が中止になったこともありました。それでも、ずっと諦めずに頑張れたのは、共に厳しい練習を乗り越えてきた仲間と、いつも前を向いて勝利への歩み方を教えてくださった顧問の先生方がいたからです。仲間との日々が、先生方の言葉が、何よりの力となり、最後の大会では強い思いを込めて、これまでの地道な努力の成果を発揮することができました。「3年間頑張ってた良かった。」部活動があったからこそ私の3年間

は輝いていました。

それぞれの目標に向かって努力を重ねた受験生としての1年。進むべき道を迷ったことや途中で投げ出したくなったこともありましたが、しかし、努力している仲間やライバルの存在が自分を掻き立て、最後まで諦めない強い心を持つことができました。自分と向き合い受験に挑んだ1年は、私たちを大きく成長させてくれました。

新しい生活様式の中で「当たり前」を1から作りながら過ごした3年間。2分前着席に、給食の準備、小さなことから大きな行事まで、どんなことにも一生懸命取り組んできました。いつも目標は「当たりのレベルを上げること」。向上心を持って目標を追い求める毎日は本当に充実していたと心から思います。

後輩たち。これまで、部活動や体育祭と一緒に思い出を作ってきたね。無邪気な笑顔で話しかけてくれたこと。そっと力になってくれたこと。ずっと信じてついてきてくれたこと。みんながいたから、私たちは先輩として強い姿を見せようと頑張ることができた。共に汗を流したかけがえのない日々を忘れることはありません。今まで本当にありがとう。「日本一の中学校をつくる」という思いを受け継ぎ、素晴らしい学校をつくってってください。私たちは、大好きな後輩のみんなをずっと応援しているよ。

沢山のことを教えてくださった先生方。勉強、部活動、社会のこと、人間として大切なこと。先生方の言葉に、数え切れないほどの大切なことを学びました。先生からの嬉しい言葉には、疲れが一瞬で吹き飛んだように心が弾みました。先生からの厳しい言葉には少し堪えたけれど、「やってやるんだ」と湧き上がる力に自分を変えることができました。私たちが3年間でこんなにも成長できたのは、先生方の沢山の言葉とその偉大な存在があったからです。本当にありがとうございます。3年間で学んだ沢山のことを心に、自分の道を切り拓いていきます。

ずっと私たちを見守ってくれたお父さん、お母さん。いつもは照れくさくて言えないけれど、今日こうして卒業を迎えると感謝の気持ちでいっぱいです。迷惑をかけても、次の日にはまた「いってらっしゃい」と言ってくれるその大きな存在にいつも支えられていました。この先も迷惑をかけてしまうことがあると思うけれど、ずっと見守っていてください。

3年間ともに過ごしたみんな。語り尽くせないくらい、色んなことがあったね。一人一人にとって、今日を迎えるまで長い道のりだったと思う。良いことばかりではなかったね。頑張ってもついてもこない結果に落ち込んだり、先生からの厳しい言葉に泣いたり、上手くいかない友達との関係に悩んだり。学校に行きたくない日もあった。それでも、どんな壁も乗り越えてきた。いつも隣にみんながいたから、苦しくても頑張れたんだと思う。みんなと3年間過ごせて良かった。沢山の出来事の一つ一つが忘れられない大切な思い出です。最高の3年間をありがとう。今日で、みんなとの当たり前だった毎日が終わってしまうのは悲しいけれど、私たちには新たな未来が待っています。みんなと過ごした3年間をこれからの力に変えて、それぞれの未来へ強く進んでいこう。

数え切れないほどの沢山のことを経験して大きく成長できた、最高の3年間。笑い声が絶えなかった教室も、汗を流して一生懸命になったグラウンドも、そして仲間や先生方と過ごした日々も、今日で終わりです。しかし、「終わり」は同時に「始まり」を意味します。それぞれの目の前に広がる道には、新たな世界が始まっています。希望に満ちた輝かしい未来へ。自分の進むべき道を信じて、これからも走り続けます。

結びに、これまで私たちを支えてくださった全ての方々に感謝を申し上げますとともに、滑川中学校の益々の発展を心から祈念して、答辞といたします。

令和5年3月15日 卒業生代表 佐藤葉月  
本当に最高の日々でした。ありがとうございました。